

令和5年度 国語 授業改善推進プラン

大田区学習効果測定 結果の分析

- 4 年生：校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を上回った。活用においては目標値と区・全国平均を上回る。説明文及び物語の読み取りにおける正答率は各平均を上回るが、領域別の情報の扱い方に関する事項と書くことにおける正答率は各平均を下回る。
- 5 年生：校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎において目標値・区平均・全国平均を下回る。領域別では、話すこと聞くこと以外、内容別に見ると、すべての正答率は区平均をそれぞれ下回る。
- 6 年生：校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を上回った。内容別に見ると、物語の内容を読み取る問題以外、正答率は各平均を上回る。

【観点別正答率の分析】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
4・5 年生は目標値を下回った。どの学年も前学年の既習漢字やローマ字の読みが身に付いている。	5 年生は目標値を下回っている。各学年で、話の内容を聞き取る問題では、伝えたいことの中心が捉えられている。また、4・5 年生で段落構成を整えて文章を書くことに課題が見られる。	4・5 年生は、目標値を下回っている。特に、指定された長さで文を書くこと、自分の考えを明確にして書くことや意見を判断して書く問題に無解答が多い。

課題〈今回の調査結果から〉

- 文章構成の把握(主語、述語、修飾語)という、すべての領域の言語活動の根本になる力に課題が見られる。
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることに課題が見られ、個人差が大きい。
- 段落構成を意識したり、指定された長さで文を書いたりすることに課題があり、記述式の問題において無解答の児童が多く（4年生 21.9％・5 年生 27.7％・6 年生 8.8％）、主体的に取り組む態度を育てる工夫が必要である。